

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かれ合い

No.56

共に生きる

発行/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 /瀬下幸弘 FAX093-622-1290

止めよう辺野古新基地建設!

沖縄県民大会



「決して屈しない、諦めない」と一致点で団結。35,000人が集う。

(参加した感想を2面に掲載)

この国は「安全」があるとしています。そのためのものになっています。出された法案の一體どに「平和」が見え見えです。ましてや実質11もの法案があるのに今の国会で全部を成立させようとしていますが、どうしてこれほど急がねばならないのでしょうか。アメリカ議会で「夏までに実現」させると言つたことを守ろうとしているのですが、安倍首相はどここの国の総理かと疑わざるを得ません。党首討論で、過去の戦争について「間違った戦争という認識」があるかについて問われても答えられず、あげくの果て「ポツダム宣言をつまびらかに読んでいない」と答えました。首相としての無知さが露呈した瞬間です。質問した野党党首が「日本の戦争の善悪の区別さえつかぬ首相に、米国の戦争の善悪の判断ができるわけがない。そういう総理が、日本を『海外で戦争する国』につくり変える戦争法案を出す資格はありません。」と述べた言葉に私たちも全く同じ思いです。今審議されている「戦争法案」の目指すところは憲法9条の破壊です。これまでアフガンやイラクへ派兵任務を経験し帰国した自衛官が54人も殺したことを見防衛省が明らかにしました。まして、重装備して「後方支援」とこまかく兵たん活動は戦争行為です。日本の若者が血を流す道をなんとしてもなくして平和を願う人々と行動しましょう。

みなづき
水無月
6
2015

「戦争法案」は若者が血を流す道

戦後70年を迎えています。この間、日本が世界中で信頼され続けたのは、「自衛隊が海外の実戦で一発の弾丸も撃たず、一人の戦死者も出さず、一人も殺さなかつたからこそ」でしょう。この道を踏み外し、若者を戦場に送り出す「戦争法案」に断固反対します。

5月15日、「戦争法案」が安倍内閣によって国会に提出されました。その法案を安倍首相は「平和安全法制」と言っていますが、中身は自衛隊の海外派兵や、米軍などの支援にあたるためのものになっています。出された法案の一體どに「平和」



イラスト 西山進さん

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第5条 拷問はやめろ

人はみな、ひどい仕打ちによって、はずかしめられるべきではありません。

第6条 みんな人権をもっている

わたしたちはみな、だれでも、どこでも、法律に守られて、人として生きることができます。

6月11日:イチイチ祈りの会

場所は黒崎教会聖堂、午後7時。
どなたでもお出でください。

6月のお知らせ

- ◆6月6日(土)小出裕章さん講演(ウェル戸畠)13時30分
下関アムネスティ(下関市民活動センター)…14時
- ◆6月7日(日)原発なくそう九州大集会福岡市舞鶴公園13時
- ◆6月9日(火)社会福音部会(アドラック)…13時30分
- ◆6月11日(木)原発ゼロをめざす署名行動(JR黒崎駅前)17時
- ◆6月13日(土)14日(日)移住労働者と連帯する全国フォーラム・闇門
九州朝鮮中高級学校(土)13時から(日)9時30から
- ◆6月27日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC)…14時
- ◆6月28日(日)「慰安婦」映画と講演 下関駅ビル3F 10時

沖縄に关心を持って連帯を

5月17日から3日間、
沖縄に行ってきました。

安永 亮 税理士事務所

安永 亮 所長

今号の「消費税と人権・平和を考える」休みます。



17日にセルラースタジアムで開かれた「戦後70年 止めよう辺野古新基地建設! 沖縄県民大会」は、主催者発表では参加者3万5千人でしたが、外野席、場外にも溢れ、確実に4万人を超えていました。島ぐるみで老若男女が思想信条の違いを超えて「決して屈しない、諦めない」と一致点で団結している姿は圧巻です。「沖縄の未来は私たちが決める。日本政府に好き勝手なまねはさせない。それが自己決定権だ」「基地問題の責任は、沖縄の民意を無視し続ける日本政府にある。民主国家と言えない日本に沖縄の未来を渡すことは出来ない」「沖縄の豊かな自然は日本政府のものではない」と登壇した方々が次々に不屈の意志を語ります。それに大支援で応える聴衆……。

沖縄は1872年以降、強制的に日本に編入され（琉球処分）、皇民化政策が推進されました。1945年の地上戦で、捨石作戦と呼ばれた本土決戦の時間稼ぎのための犠牲とされました。戦後はアメリカの統治下で無権利状態に置かれ、島ぐるみの闘争で1972年にやっと日本に復帰した後も、日本の面積の0.6%、人口は1%に過ぎない沖縄に在日米軍基地の74%が集中し、米兵の凶悪犯罪の75%を沖縄が占める異常な現実に苦しめられ続けてきました。

これまで耐えに耐えてきた沖縄の人たちの深い悩み、苦しみ、怒りを私たちは共有しなければ、「日本に沖縄は入っているのか」という痛切な叫びを理解できないでしょう。

しかし今、多くの本土の人たちがその思いを共有して行動しようと沖縄を訪れています。辺野古基金は一ヶ月もたたないうちに2億円を突破し、75%は本土からだそうです。本土との温度差を感じていた沖縄の人たちは、情勢の変化に励まされています。沖縄と本土があらゆる方法で連帯して闘えば必ず勝利できると確信しています。

沖縄の基地問題は、単に沖縄だけの問題ではありません。日本人の人権意識、平和と民主主義を守り抜く意思、地球環境保護の姿勢が問われています。

翁長知事を先頭に沖縄の人たちは、国連をはじめあらゆる手段を講じて阻止すると決意しています。県民大会ではオリバーストーン監督のメッセージが読み上げられました。自由と民主主義と人権を愛する世界中の 사람들이沖縄の現状を知るならば、必ず連帯した活動が発展すると思います。

会場を埋め尽くした参加者（写真/筆者）



辺野古の海では海上保安庁の職員が、無抵抗の女性の乗ったカヌーを転覆させ、背後から羽交い絞めにして海に沈め、死の恐怖を味わわせるという蛮行を働いています。撮影したDVDなどの資料も豊富です。

沖縄の人たちは本土の人たちに本当の事実を知ってほしいと願っています。大手マスコミがほとんど報道しないことをいいことに、日本政府は信じられない人権弾圧を遠く離れた沖縄でしています。沖縄タイムスや琉球新報は連日報道しています。

とにかく沖縄に関心を持って、連帯しましょう。沖縄の闘いは、日本の平和と民主主義の未来を切り開く闘いだと思うのです。

初めての沖縄、3泊4日の旅から

牟田 陽雄（八幡西区革新懇）

今年は兄がミャンマーで戦死して70年になります。機会があれば沖縄の戦跡と基地を見たいと思っていました。3月初旬にその機会がありました。

話で聞いていたことより大きい沖縄の実態を知りました。戦没者数が20万人、一般住民の死は艦砲や銃撃、日本軍による虐殺、集団自決等の死、餓死、マラリヤ、栄養失調、疎開途中での潜水艦追撃による犠牲等さまざまです、戦後

厚生省による遺骨収集だけでも19万6000柱を終えている状況です。（県民の犠牲は15万人を上回る）

沖縄県民は日本国憲法9条が及ばなかった時から9条をよりどころとし、米軍統制下の圧政に抵抗し、日本復帰しました。「今後も憲法9条を守り、生かされるために」と、闘う現地の方々の熱い想いがこもった言葉に、元気をもらった旅でした。

ある少国民の戦中・戦後

④ 秋吉正子

連続6回

(四) お山の杉の子

サイパン島が玉碎すると、そこを基地として東京や名古屋、大阪へのB29の空襲がはじまり、ひとつの心に暗い不安な気持ちが強くなつて、九年の終り頃、「お山の杉の子」の歌は作られました。明るくて可愛らしい童謡のようなこの歌は、重苦しい世相を吹きとばすように、またたく間に全国に拡がりました。

この歌をいちばん先にわたしたちに教えてくれたのが、校長先生でした。朝礼の時など全校生徒が集まる機会をみつけては、運動場の朝礼台の上に立て、まず自ら歌い、生徒に後をつけさせます。マイクも無かつたので、校長先生は細い腕を振り上げて調子をとりながら声をふりしほつて精いっぱい大きな声で歌い、わたしたちが歌えるようになるまで、根気よく熱心に教えてくれたのです。

お山の杉の子 吉田テフ子 作詞

サトウハチロー補作

一、昔 昔の その昔

椎の木林の すぐそばに

小さなお山が あつたとさ あつたとさ

丸々坊主の禿山は

いつでもみんなの 笑いもの

「これこれ杉の子 起きなさい」

お日さまにこにこ 声かけた声かけた

一二三四五六七

八日 九日 十日たち

によつきり芽が出る 山の上 山の上

「東方遙洋」1943(昭和18)年ごろ 高知県の国民学校 天皇崇拝の教育は学校教育のあらゆる機会に徹底して行われました。校長先生の号令一下、深々と頭を下げておじぎをさせられました。▼



「国民学校の修学旅行」昭和18年ごろ ▶
愛知県中川国民学校 修学旅行も「皇國民教育」のひとつとして行われました。天皇の先祖をまつる伊勢神宮や権原神宮の参拝が、かならず取り入れられました。

歌いました。いつのまにか「杉の子」に自分を重ね合わせながら。

生徒のことを常に気にかけて、校内をめぐるのが日課だったやさしい校長先生は、戦争に巻き込まれて子どもらしい楽しみも奪われてしまつたわたしたちのために、せめて軍歌らしくないこの歌を、一生懸命に教えられたのにちがいありません。それなのに戦争中の心労が重なつたためでしょうか、まもなく病気になられて亡くなられたのでした。

ところで「お山の杉の子」は「日本少国民文化協会」が、戦災で親を失つた子どもたちを元気づけようと詞を公募し、作曲した歌だつたのです。しかも歌詞は三番までと思つていたら、意外にも六番まであつたのです。六番は

六、さあさ 負けるな 杉の木に

勇士の遺児なら なお強い

体を鍛え 頑張つて 頑張つて

今に立派な 兵隊さん

忠義孝行ひとすじに

お日さま出る国 神の国

この日本を 護りましょう 護りましょう

となつていて、三番までと内容があまりにも異なつて、後から意図的に付け足したと思われるを得ません。同時に、少国民への教育の一端を見たものです。ただ、戦後になつて、三番の「国の大め」は軍国主義的だという理由で「皆のため」と改められて歌われたのでした。

(続く)

「はいはいお日さま 今日は
これを眺めた 椎の木は
アツハハのアツハハと 大笑い 大笑い
三、「こんなチビ助 何になる」
びっくり仰天 杉の子は
思わずお首を ひつこめた ひつこめた
ひつこめながらも考えた
「何の負けるか 今に見ろ」
大きくなつて 国のため
お役に立つて みせます みせます
わたしたちはまもなく、このながい歌をすらすら
と歌えるようになり、全校生徒が集まる時には必ず

けれどもさすがに、四番から六番までの軍国調の押しつけの歌詞は嫌われたらしく、誰も歌わなかつたのです。ただ、戦後になつて、三番の「国の大め」は軍国主義的だという理由で「皆のため」と改められて歌われたのでした。

安倍首相の膝元で

日本軍「慰安婦」問題について

連続
10日間

パネル展を開催

無料

「慰安婦」問題をあなたに
知つてほしいのです。

中国人映画監督・作家
班 忠義さんの

はん ちゅうぎ



映画と講演

6月28日(日)
AM 10:15~

ところ／JR下関駅ビル3F「リピエ 多目的室」

映画 「ガイサンシーとその姉妹たち」45分

(中国「慰安婦」の実態・監督 班 忠義)

講演 テーマ「歴史問題にみる日中関係」45分

～“慰安婦”に太陽を～ (講師 班 忠義)

無料

【プロフィール】
遼寧省撫順出身。1978年、黒竜江大学日本語学科入学、82年文学学士取得。87年に日本へ留学し、翌年上智大学新聞学研究科入学。92年、文学修士取得。卒業後は作家、ドキュメンタリー映画監督として中国残留孤児の問題に取り組む。92年、「曾おばさんの海」が週刊朝日ジャーナル第7回ノンフィクション大賞を受賞。93年、「国際貢献と日本の役割」で日本外務大臣賞。94年、「国と人間」で毎日新聞賞。著書に『近くで遠い祖国』(ゆまに書房)、『ガイサンシーとその姉妹たち』(梨の木舎)『亡命遙かなり天安門』(岩波書店)他。

■後援：朝日新聞社・山口新聞社・tysテレビ山口

アムネスティ・下関グループ主催 問い合わせFAX (083)245-0428 (山県) FAX (093)622-1290 (瀬下)

《アムネスティ》下関通信 (No. 14)



ソウルから帰宅した小庭には、十葉の花が咲き乱れていました。思わず、昨日お別れしてきた“慰安婦”的国際会議で出会った女性たちのようだと感じました。

初参加した「第13回“慰安婦”問題アジア連帯会議」(5/21~24、於ソウル。8ヶ国より約150名参加)では、当然ながら初対面の方が多く、今、頂いた多くの名刺を拝見しながら、どなたもまるで数十年来の友人のようだったと不思議な思いです。何も語らずとも“慰安婦”問題に関心深く生きてきた人ばかり。初対面の時、国籍や出身地などあまり問う必要がなく、唯温かい親近感に包まれたことに気づかれます。共通点は

“慰安婦”にされた人たちの「傷みと癒しと回復」を願い続けて生きてきた人たちでした。

会議は同時通訳器で進められましたが、特に壇上からの発言者(被害

者、各国代表、学者、弁護士、活動家等)から、度々“ジャパン”、“アベ”的語が繰り返され、休憩時間には「安倍さんの地元民です」と自己紹介するハメに。熱気のこもる総合討議の結果は3日目に「決議と計画」としてまとめられ、平和定着への責任を尽くすべく「日本政府、被害国政府、国際社会、私たち」の四者に向けての提言が採択されました(紙幅がないため詳細はマスコミ他の情報をご覧下さい)。オプションでは、日本大使館前の「少女像」と、「戦争と女性人権博物館」で多くの召天されたハルモニたちに、改めて深く頭を垂れました。最後の夜もスタッフ方は、今夏の安倍談話等の対策を練られ、私は持参した6月行事のチラシをご参考までにと配りました。

帰路福岡空港から天神バスセンターまでの道中、女子大生さんが重い荷を持ってください、嬉しい旅のエンディングでした。(2015.5.28 アムネ下関、山県)



沖縄県那覇市の新名所紹介(Mu)

ふくつかん 「不届館」瀬長亀次郎と民衆資料

不届館とは沖縄の祖国復帰と平和な社会の実現を目指して命がけで闘った、瀬長亀次郎(元衆議院議員)が残した膨大な資料を中心に、沖縄の民衆の戦いを後世に伝えようと設立された資料館で、2013年にオープン。瀬長亀次郎の言葉が今、輝いている。(不届館だより2015年1月冬号)

「不屈」「無抵抗の抵抗」「沖縄県民が声をそろえて叫んだならば太平洋の荒波を越えてワシントン政府を動かすことができる」

ツイッター



第一牧志公設市場



沖縄の旅

(安永亮さん提供)



普天間基地



県民大会



辺野古



高江のテント

5月号の感想、3人から届きました

《山口の横さん》 秋吉正子さんの“勤労奉仕”から。小学生の時、出征兵士の家へ学校から手伝いに行き、刈り取った稲の束運びをしてご馳走になったおにぎりの美味しかったこと。忘れられません。ご飯もろくに食べられない時代でしたから。妹は小学校入学時、セーラー服が手に入らず銘仙の着物を解いてつくった服を着ていました。私は女学生になった時、制服が手に入らず卒業生のをいただきました。カン司教のお話で基地建設反対運動の過程で共同体の意識変化が進んだことを読み、嬉しいニュースです。

《横浜のSr.重さん》 5月3日は横浜の憲法集会に行きました。大江さんや澤地さん、落合恵子さんの言葉に、日頃思っていたことを代弁してもらって、元気づけられました。3万人の参加者で「憲法9条を守りたい」という一念で結集すればもっともっとできることがあると痛感しました。

《松山市の尾さん》 保守的な松山で、憲法集会に1,300人が参加。浜矩子さんの講演もあり、集会に参加して勇気をもらったような気がします。頑張っている人を見ると元気と勇気が湧いてきます。「共に生きる」新聞は情報が豊富で、何よりもいろんな人が平和の為に頑張っている様子が伝わってきて励まされます。これからもよろしく。

日本漫画家協会
日本漫画家会議
にしやま すすむ
西山 進 さんの漫画



日本はアメリカの戦争に加担してきた
今度は、日本の若ものが戦場に

分かち合いのひととき

虹の会

— 「向き合えば命流れる」 —

5月24日 25名参加

次回2015年6月28日ミサ後。
どなたでもご参加ください。

二人の活動を素晴らしいと思った。」

「自分から動いて、人と繋がることの大切さを教える思いがしました。」

「若者が外に出ていって学び、学んだことをこうして分かち合ってくれる。その活動を継続していく在り方は素晴らしいです。ぜひ応援していきたいです。」

キリストの平和を育む青年二人(高巣猶哉さん[被災地大槌(岩手県)へ3ヶ月]、有吉優里さん[タイへ1週間])のボランティア体験とそれを通して感じたことを分かち合っていただきました。

参加された方から

「時間や身体や心など大切なものを人のために使う

東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢見ながら



カトリック韓国済州教区長

カン・ウイル司教

※文責／編集部

「チエジュ島の4・3事件」

（1948年5月、38度線の南半分だけで総選挙が行われたが、チエジュ島では、南半分だけの選挙には同意しない世論が起き始めた。）その世論が高まり、選挙ボイコットの動きが島全体に広まりました。その中には確かに社会主義的考え方を持つ左翼の人たちの働きもかなりあつたと思います。当時、チエジュ島は戦争が終わり、日本から帰ってきた人、出稼ぎに出ていた人たちが46年47年と2年間で6万人以上帰ってきました。急に人口が増えたので食べ物は足りない、働き口も足りなく島民たちの生活は苦しい状況に追いやられ社会的不満が募っていくばかりでした。（分断）選挙反対とそういう社会的不満が重なり島民たちは大衆集会や多くのデモをやり始めました。当時軍政の責任を持つていた米軍は地元地域の警察を通してその島民たちの動きに強圧的に対応しました。警察はこの動きの背景にはすべて共産主義者の働きがあるとみなし、それらしき人たちを皆逮捕し、捜査の過程でいろんな拷問を行い、その結果命を落とす人もいました。段々と悪化していく状況を感じた左翼グループの人たちは、このままで全員捕まり刑務所にいくか殺されるしかないと切羽詰った危機感を感じるようになりました。そしてかれらは討論の末、このままやられるよりは立ち上がるしかないと、48年4月3日、チエジュ島内12ヶ所の警察駐屯所を襲撃しました。この事件によつて米軍はチエジュド全体を「レッドアイランド＝赤い島」と名付け、韓国

(8)

本土から軍隊を派兵して、いわゆる赤狩りを始めました。

48年8月15日、総選挙の結果韓国政府が樹立され、イ・スマン（李承晩）大統領が就任しました。彼はチエジュド全域にだけ戒厳令を布告し、韓国本土から大部隊を派遣して大々的に鎮圧作戦を開きました。軍は山岳地帯に住む住民に空からピラを撒き、一週間以内に海岸線から5km以内の地点に山から降りて来なさい、一週間以内に降りてこない人は皆武装ゲリラと見做す、そういう布告文をバラ撒きました。そして一週間が過ぎた後、軍隊は山岳地帯に散在している村を一つずつ片つ端から包囲して無差別的焦土化作戦を開きました。イ・スマン政権は、この時、軍隊だけではなく、鎮圧作戦にいわゆる西北青年団という右翼団体をチエジュドに送り込んで、彼らがいわゆる赤狩りの手助けをするようにしました。西北青年団とは、38度線より北のピョンヤン近くの地方を西北というのですが、北朝鮮にソ連による共産政権が成立し、北に居たいろんな土地を持つている人や公務員として働いていた人々は、徹底的に迫害、肅清される過程の中にありましたので、彼らが南へ逃げてきて、新しくはじめたのがいわゆる西北青年団です。彼らは共産主義者たちからふるさとも財産も全て奪われた人たちですから、共産主義者といえば、目北青年団です。彼らは共産主義者の色を変えて敵とする、そういう構えでした。その彼らがチエジュドで鎮圧作戦に合流するわけですが、チエジュドの人たちは今でも、西

北青年団と言えば彼らが軍隊や警察よりも、もっと残酷なやり方で住民たちを苦しめさせたということをはつきりと覚え記憶しています。（続く）

編 集 後 記

8月の戦後70年談話が注目されます。「村山談話を含め、歴史認識に関する歴代内閣の立場を全体として引き継いでいく」と安倍首相。では、「侵略」「間違った戦争」を認めるかの質問には答えようとしている。日本の犯した戦争を「アジア解放」「正義の戦争」だったと美化する「靖国」中心の歴史観に立ち憲法改定をもくろむ日本会議国會議員懇談会のメンバーだからでしょう。ただ真正面から改憲を叫ぶと国民からノーを突きつけられるので、法律を作つて憲法破壊の拳に出ようとしています。権力者が突如「国民の命と平和」を叫ぶ時、その裏に隠されたものを私たちを見逃しません。（瀬下）